

平成 29 年 2 月 13 日 平成 29 年第一回練馬区議会定例会 一般質問

(山内副区長答弁内容のメモ)

築地市場の豊洲移転については、昨年の第四回定例会において、この間の経緯を良く承知している私から答弁した内容に尽きていますが、同趣旨のしかも更に粗雑としか言いようのないご質問がありましたので、再度、お答えいたします。

まず、知事本局長の権限と東京ガスとの関係についてであります。

知事本局は、都庁内の複数局が関わる様々な案件についての調整機能を有していますが、各事業局の実務や決定に立ち入る権限を有していません。豊洲の土地売買や土壌汚染の処理に関わる具体的な権限を有するのは、中央卸売市場長と環境局長です。知事本局長には、実務的な処理の権限はありませんし、実際にも土地売買や土壌汚染の処理について具体的には一切関与しておりません。知事本局の部課長もその調整という範囲内で会議に出席していたものです。なお、豊洲移転は、前川区長が、福祉局長在任時に決定済みでありました。

このことについてですが、東京都総務局は、マスコミの問い合わせに対し、小池都知事就任後の昨年 9 月 20 日に、

「前川氏は在職中、東京ガス株式会社に対する行政上の権限を有する業務に従事しておらず、市場移転に係る豊洲地区開発についても、知事本局は事業執行の所管局ではなく、行政上の権限を有していないため、東京ガスは、『在職中の職務に関連するもの』に当たりません。」

と回答しています。

また、「豊洲地区開発準備に係る合意」および「豊洲地区用地の土壌処理に関する確認書」については、

「豊洲・晴海開発整備計画に基づき、市場移転を含む豊洲地区開発を進めるための具体的な方法等について、あくまで民間地権者と確認したに過ぎず、『合意』や『確認書』の内容については、前述の各事業所管局の局長が、その権限の範囲内で決定し、実行するものです。」

これに署名・押印があることをもって、前川氏が行政上の権限を行使したことにはなりません。」

と回答しています。この回答は、先程申し上げた、調整機能を有する局の長として、立会・確認する意味で署名押印したに過ぎないことを示したものであります。

このように東京都が、明確に否定しているにもかかわらず、これに目もくれないのは、不思議なことだと思います。

次に、東京ガスへの再就職は東京都の基準に反するとのことについてであります。

再就職先を決定するのは、人事当局であり、退職者自身が自分で行先を決めることはできません。東京都の「職員の民間企業への再就職に関する取扱基準」が定められています。この基準に違反する再就職人事は、そもそもあり得ません。

このことについて東京都総務局は、先程述べたマスコミに対し、

「都民の誤解を招くことがないように再就職する場合には、『職員の民間企業への再就職に関する取扱い基準』に則り、適正に運用してきたところです。

前川氏の再就職についても、当該基準に基づいて実施しており問題ないと認識しております。」

と回答しています。

また、週刊誌の記事においても、「前川氏は知事本局長としての立場上、合意書などに印を押したわけで、東ガスとの契約の権限があったわけではない。あくまで中央卸売市場や港湾局が契約の所管。前川氏の再就職に問題はなかった。」と東京都総務局の見解が引用されています。

一体、議員のおっしゃる人事担当者の誰が驚愕していたのか、不思議としかいいようがありません。

次に、何故、東京ガスに再就職したのかについてであります。

これは、石原都政二期目の後半、側近の濱渦副知事が全権を握り、都政をろう断しようとしていたという当時の状況全体を理解して頂く必要があります。こうした状況において、前川知事本局長が、当時の知事や副知事と一体で豊洲市場問題に対応することは、あり得ないことでした。逆に、有力な副知事候補であった前川知事本局長の追い落とし工作が始まり、それに対して闘ったのが百条委員会事件でした。都議会の自民党を中心とした公明党、共産党、生活者ネットの皆さんが、当時の知事や副知事と闘って頂いた結果として、都政を牛耳っていた副知事と差し違える形で退職しました。もう東京都に関わりたくないと思ったそうです。再就職先として東京都から独立した経営体である東京ガスが選ばれたのは、人事当局の配慮の結果であります。なお、前川区長の再就職時には、東京ガスと都との間では、法令や条例上の土壌の汚染問題処理は既に決着済みでした。

豊洲市場の汚染問題が大きな社会問題となったのは、区長が東京都を退職した後であります。豊洲市場問題については、すでに情報公開が大きく進んでいます。議会での議論は、こうした資料を調査した上で、正確な事実認識に基づいて行われるべきであります。ご質問は、意図的に虚偽のストーリーを作り、これを流布しようとしているものとしか理解できません。

このような発言により疑念を生じさせるようなやり方は、区政の両輪である議会の品位を貶めるものではないかとも危惧しております。

私からは以上であります。